

秋田の土地改良

3

2012・MAR



東日本大震災の被災地の皆様に、謹んでお見舞い申し上げます。



がんばれ東北! がんばろうニッポン!!

目次

- | | | | |
|------------------------------------|---|-------------------------------------|----|
| 水土里ネット秋田第54回通常総会を開催!..... | 2 | 特集:農業水利施設内の「ゴミ」問題(シリーズ⑧)..... | 10 |
| 第53回全国土地改良功労者表彰式(全土連第54回通常総会表彰)... | 4 | 「中山間ふるさと・水と土フォーラム」が開催される..... | 11 |
| 「東北農政局田沢二期農業水利事業所」開所式が行われる..... | 5 | 特集:地域からの情報発信(雄勝支部水土里レポーター 矢野二郎)... | 12 |
| 美郷町千畑土地改良区 設立50周年記念式典..... | 5 | 震災避難者との親睦・交流「新春もちつきお楽しみ交流会」を開催!!... | 13 |
| 県営「国見地区」経営体育成基盤整備事業(高度利用型)竣工式... | 5 | 水土里情報システムへの加入について(お願い)..... | 13 |
| 新規事業「農業体質強化基盤整備促進事業」の概要について... | 6 | 連合会日誌、会員だより..... | 14 |
| 「農地・水保全管理交付金(Ⅱ期対策)」の概要について..... | 8 | | |



●発行所 秋田県土地改良事業団体連合会 〒010-0967 秋田市高陽幸町3番37号
TEL 018-888-2750(代) FAX 018-888-2834
<http://homepage2.nifty.com/akidoren/>



水土里ネット秋田 第54回通常総会

● 本会理事に田口理事長(かづの土地改良区)を選任 ●



3月16日、本会第54回通常総会が秋田市文化会館において、会員119名(内委任状59名)が出席し、来賓として佐竹敬久秋田県知事、佐藤憲雄東北農政局長、小松隆明秋田県議会副議長、金田勝年衆議院議員、高松和夫衆議院議員、寺田典城参議院議員ほか関係者多数の臨席のもと開催された。

総会は、高貝会長が「昨年発生した『東日本大震災』をはじめとする大規模な災害は、国民全体が「人と自然の共生」、「人々の絆や繋がり」の重要性を再認識する機会となった。また、震災直後における農産物等の供給不足は、国等の行政に対し、『安全・安心な食料の安定供給』に関する生産基盤の整備を、強く訴えかけるとともに、我々水土里ネットがこれまで担ってきた農業農村整備の着実な推進が極めて重要であることを提起した。一方、農業農村整備事業を取り巻く情勢は、担い手の高齢化や後継者不足、耕作放棄地の増大といった構造的な課題や、戸別所得補償制度導入以来の関係予算低迷に加え、『TPPの交渉参加に向けて関係国と協議に入る』という政府決定がなされるなど、新たな課題に直面している。農業を基幹産業とする本県にとって大きな打撃となるのは必至であり、県内関係団体と一層の連携を図りながら、国民的な議論を踏まえた慎重な対応がなされるよう、強く要請していく」と挨拶し、引き続き、功績者表彰として優良6団体及び個人16名の表彰が行われ、さらに、来賓の方々が祝辞を述べられた。

議事では、議長に大仙市協和土地改良区理事長加藤久孝氏を選出し、平成22年度事業報告・一般会計収支決算及び財産目録、平成23年度一般会計収支補正予算(理事会専決)、平成24年度事業計画・平成24年度一般会計収支予算などが審議され、すべて承認されたほか、役員の補欠選任では、田口信一氏(かづの土地改良区理事長)が理事に選任された。

なお、事業計画では、「維持管理計画書作成支援」の最終年度としての継続や、「小水力発電の実証化」、「水土里情報を活用した新たな業務展開」、「農地・水保全管理支払交付金」、「農業体質強化基盤整備促進事業」等への取り組みなどが承認された。

最後に、黒子専務理事により、決議文(別掲)の朗読による提案があり、満場の承認を得て採択され、総会は終了した。



今回表彰された土地改良功績者表彰(優良団体及び個人)は次のとおり。(敬称略)

優良団体

- 金章 由利本荘市滝沢堰土地改良区、秋田県西仙北土地改良区
 銀章 昭和土地改良区、大仙市西仙北土地改良区
 銅章 能代市榊土地改良区、男鹿市福川土地改良区

個人表彰

- 泉谷健一、高嶋良美、邑山潤一、米田新一、長岐洋一、齋藤文範
 成田和保、三浦英樹、伊藤恒宣、小林秀昭、佐藤 昇、猪股則雄
 武藤 威、伊藤和美、照井美津子、新山富雄



決 議

我々「水土里ネット」は、これまで農業生産基盤整備を継続的に推進することにより、本県農業が、我が国の「食料生産基地」としての一翼を担い、基幹産業として発展することを支えてきた。



特に近年は、異常気象による農作物被害が多発しているが、こうした中でも排水対策などを行ったほ場では、顕著な被害軽減効果が確認されており、地域からは暗渠排水等の整備要望が高まっている。さらに、大規模経営を目指す農家からは、労働生産性の向上等を図るため、ほ場の大区画化を求める声が上がっているが、現状の農業農村整備対策予算の規模では、多くの要望に沿った整備が実施できない状況にある。

しかし、本県農業・農村が今後とも持続的に発展し、「国民への安心・安全な食料の安定供給」を通じて、我が国の食料自給率の向上に一層貢献していくためには、農地や農業水利施設の機能を適正に発揮させる生産基盤の整備を、継続的かつ安定的に実施することが不可欠である。

このような重大な使命と期待を担う農業農村整備を積極的かつ着実に推進するとともに、先人達の叡智と努力によって育まれてきた「水」、「土」、「里」を良好な状態で次世代に継承するため、下記事項の実現を図ることを総会の名において決議する。

記

- 一、我が国の農業構造を根底から覆す「TPP」問題を機会として、今後の農業・農村の中で土地改良区のあるべき姿を国の責任において検討すること。
- 一、農地を担い手に集積し、労働生産性の更なる向上を図るため、大規模な経営を目指す地域のほ場の大区画化等に必要な予算を確保すること。
- 一、大豆、戦略作物等の生産拡大に不可欠な暗渠排水や水路の緊急補修等きめ細かな整備を行うための事業を継続的な制度として確立すること。
- 一、農業用水の安定的な確保や環境保全型農業の推進に資する農業水利施設の計画的な保全・整備に必要な予算を確保すること。
- 一、老朽化した農業水利施設の耐震強化など防災機能の向上に向けた更新・整備と管理体制の充実を図る施策を推進すること。
- 一、農地や農業水利施設等の一層の効果的・効率的な保全管理・整備をするため、地方公共団体、土地改良区、農協等が活用する「水土里情報システム」の更新・整備に対して支援措置を講ずること。

平成24年3月16日

秋田県土地改良事業団体連合会 第54回通常総会
(水土里ネット秋田)

第53回全国土地改良功労者表彰 平成23年度農業農村整備優良地区コンクール

■第53回全国土地改良功労者表彰

平鹿町土地改良区が農林水産大臣表彰、4団体3個人が全国水土里ネット会長表彰

全国土地改良功労者表彰は、永年にわたり土地改良事業に尽力され、功績が認められた土地改良関係者(優良団体・個人)が表彰されるもので、本県関係者としては、6年ぶりの農林水産大臣表彰(ダイヤモンド賞)として平鹿町土地改良区の受賞が決定したほか、4団体3個人の全国水土里ネット会長表彰の受賞が決定した。

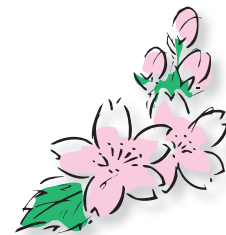
表彰式は、3月27日(火)、全国水土里ネット通常総会終了後、シェーンバッハ砂防(東京都)で行われる。

〔優良団体表彰 農林水産大臣表彰〕

◇平鹿町土地改良区

〔優良団体表彰 全国水土里ネット会長表彰〕

- ◇金章 田代町土地改良区
- ◇銀章 大内土地改良区
大館市土地改良区
- ◇銅章 鳥海町上川内堰土地改良区



〔個人表彰 全国水土里ネット会長表彰〕

- ◇石山 米男(秋田県雄物川筋土地改良区前総括監事 故人)
- ◇北林 正志(田代町土地改良区事務局長)
- ◇加藤 広隆(秋田県仙北平野土地改良区事務局長)

■平成23年度農業農村整備優良地区コンクール〔農業生産基盤整備部門〕

「大沢地区」(河辺土地改良区)が農村振興局長賞を受賞

農業農村整備事業を契機として、効率的かつ安定的な農業経営を行い、生産性や収益性の高い農業を積極的に展開している地区を表彰する、平成23年度農業農村整備優良地区コンクール〔農業生産基盤整備部門〕において、「大沢地区」(河辺土地改良区)が農村振興局長賞を受賞することが決定した。

表彰式は、全国土地改良功労者表彰と同様、3月27日(火)、全国水土里ネット通常総会終了後、シェーンバッハ砂防(東京都)で行われる。

東北農政局田沢二期農業水利事業所 開所式



2月2日(木)、東北農政局田沢二期農業水利事業所の開所式が、大仙市大曲の同所で、国・県の関係者、受益地(仙北市、大仙市、美郷町)の首長、秋田県田沢疏水土地改良区理事ら65人が参加して行われ、円滑な事業の推進が誓われた。

式典では、佐藤東北農政局長の挨拶、井原事業所長の事業計画概要説明に続き、中野副知事、栗林大仙市長、本会黒子専務の来賓祝辞、高貝秋田県田沢疏水土地改良区理事長(本会会長)の謝辞等が行われた。

事業は、玉川を水源として仙北平野北東部の水田など4,697ヘクタールを潤す、「田沢疏水」、「第二田沢」の頭首工、用水路などを改修するもので、工期は平成31年度までの8年間、総事業費は159億円となっている。

美郷町千畑土地改良区 設立50周年記念式典

2月17日(金)、美郷町千畑土地改良区の設立50周年記念式典が、大仙市グランドパレス川端で、県、町、土地改良区の関係者など、約130名が出席して挙行された。

式典は、佐藤理事長の式辞、杉澤事務局長の経過報告、元理事長等への表彰状贈呈、本会高貝会長等の来賓祝辞などと続いた。

同土地改良区は、昭和37年、当時の本県としては画期的な市町村単位の土地改良区として、8地区が新設合併しており、以来、土地改良区を事業主体とした「農業構造改善事業」、「積雪寒冷地対策事業」をはじめ、「県営ほ場整備事業」、「担い手育成基盤整備事業」、「経営体育成基盤整備事業」等が実施され、地区のほぼ全域が整備済となっている。



県営「国見地区」

経営体育成基盤整備事業(高度利用型)竣工式



2月20日(月)、平成18年度から5年間の工期で施工された、県営「国見地区」経営体育成基盤整備事業(高度利用型)の竣工式が、大仙市の大曲エンパイアホテルで、県、市、土地改良区の関係者など約80名が出席して行われた。

式典は、細谷秋田県仙北平野東部土地改良区理事長の式辞、伊藤仙北地域振興局長の挨拶、柳田仙北農林部農村整備第二課長の事業経過報告に続き、本会高貝会長などが、来賓祝辞を述べた。

当地区は、昭和47年度から昭和62年度まで、「県営ほ場整備事業」により、30アール区画で整備済みの地区であったが、施設の経年劣化により、維持管理に多大な労力等を要するとともに、地区の西側では湧水も加わり、転作作物の品質悪化が深刻な状況にあった。このため、本事業は、高度利用型(従来は土地総型)により、約22億4千万円の事業費で、用排水路工72.7km、暗渠排水工84.5ヘクタールなどが施工され、結果、農地の汎用化が推進されており、併せて行われた高度経営体面的集積事業により、高生産低コストの農業経営へと繋がっている。

新規事業「農業体質強化基盤整備促進事業」の概要について

H23年度4次補正【80,111百万円】

対策のポイント

畦畔除去等による区画拡大や暗渠排水等の農地の整備、老朽施設の更新等の農業水利施設の整備をきめ細かく実施します。

<背景／課題>

- ・食と農林漁業の再生推進本部で決定された「我が国の食と農林漁業の再生のための基本方針・行動計画」において、農地集積の加速化や農業の高付加価値化等によって、我が国農業の体質を強化することを目指しています。
- ・このためには、農業者が経営規模の拡大や農作物の高付加価値化・品質向上等に取り組む上で支障となる農地の区画狭小・排水不良や農業用水の不足等の農業基盤の課題について、迅速かつきめ細かく対応していく必要があります。

政策目標

土地利用型農業について、平地で20～30ha、中山間地域で10～20haの規模の経営体が大宗を占める構造を目指す。(平成28年度)

背景

平成22年度 農業者戸別所得補償モデル対策

平成23年度 農業者戸別所得補償制度本格実施
(政策目標：32年度までに戦略作物作付面積を65万ha拡大)

【本格実施に伴う状況変化等】

個々の経営体は自ら生産数量目標を定めて営農を展開

経営規模の拡大や集落営農の組織化・法人化が進展

不作付地を活用した新規需要米の生産志向が拡大

営農上の個別課題にきめ細かに対応する必要

経営規模・営農体系に見合った農地の大区画化・汎用化が必要

用水需要の増大に即した水利施設整備が必要

平成23年10月 「我が国の食と農林漁業の再生のための基本方針・行動計画」決定
(食と農林漁業の再生推進本部)

- 平地で20～30ha、中山間地域で10～20haの規模の経営体を育成するため、ほ場の大区画化等により農地集積を加速化
- 農業の高付加価値化に向けた農業・農村の6次産業化の促進

〔農業体質強化基盤整備促進事業の創設〕

事業内容等

事業内容

1. きめ細かな基盤整備による農業の体質強化

すでに農地の区画が整備されている地域等において農地・農業水利施設の整備をきめ細かく実施し、経営規模の拡大や戦略作物・地域振興作物の生産を促進

- ① 畦畔除去等による区画拡大や暗渠排水等の農地の整備
- ② 老朽施設の更新、用排水機の増設等の農業水利施設の整備

2. 整備済み農地の高度利用を迅速・安価に推進するための定額助成の導入

自力施工等による農地区画の拡大や暗渠管設置といった簡易な二次的整備を定額助成によって促進

- ・簡易な区画拡大：10万円/10a(水路の管水路化を伴う場合20万円/10a)
- ・標準的な暗渠排水(本暗渠管の間隔10m以下)：15万円/10a

事業主体

都道府県、市町村、農業者等の組織する団体（土地改良区等）

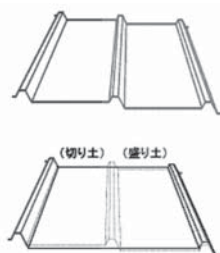
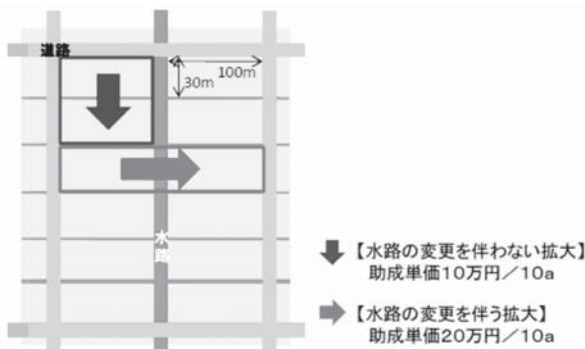
補助率

定額、1/2等

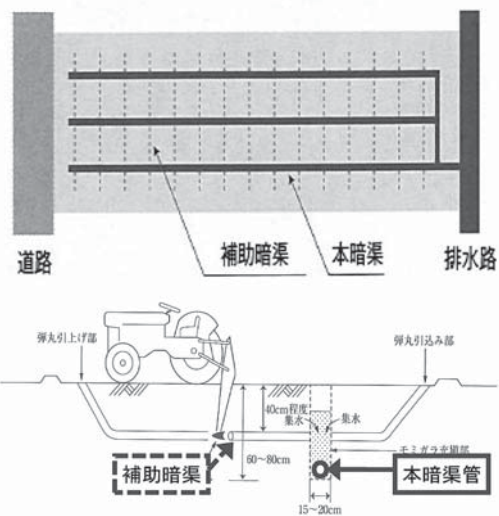
助成内容

- 土地利用型農業の競争力を強化するためには、整備済みの農地のストックを高度利用することが有効
- このため、畦畔除去等による区画拡大や暗渠排水の整備を「定額助成」で迅速・安価に推進

① 畦畔除去等による区画拡大



② 標準的(10m以下)間隔の暗渠排水



助成単価15万円/10a

※区画の形状等により吸水渠(本暗渠管)の間隔(L)が10m以上となる場合には、下式により受益面積(A)を割り引いて助成額を算出するものとする。

$$\text{助成額} = A \times 10 / L \times \text{助成単価}$$

『農地・水保全管理交付金(Ⅱ期対策)』の概要について

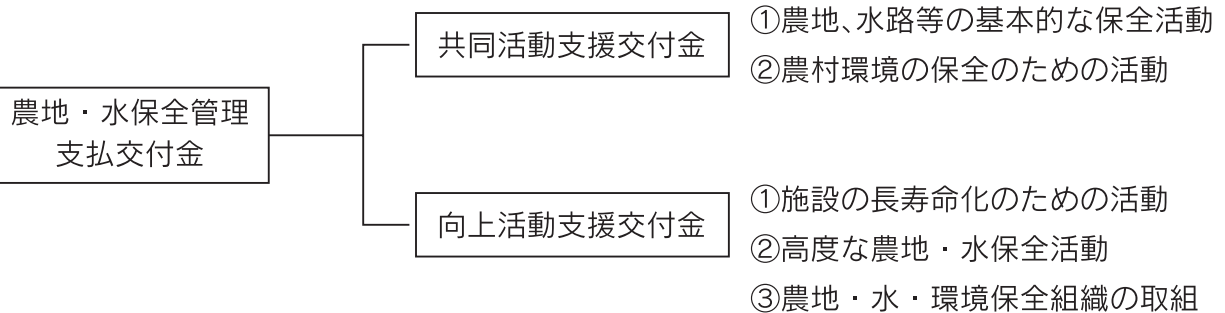
■平成24年度からⅡ期対策がスタート！

本事業は、平成19年度から23年度までの5年間で「農地・水・環境保全向上対策(第Ⅰ期対策)」として、全国2万組織で活動が展開されてきました。県内各地でも本事業の取り組みによって、NPO法人の設立で農村地域の活性化を模索する地区や、耕作放棄地を再生し市民農園や教育ファーム等の農業体験施設として蘇らせる組織など、様々なグループの参画と特色ある活動が展開され、地域社会の機能回復と農村環境・土地改良施設の維持保全に大きな役割を果たしてきました。

また、本県における平成23年度活動状況は、707組織で63,319ha(対象面積の56%)で取り組んでいますが、殆どが集落単位組織となっております。

農林水産省では、平成19年度から行ってきた地域共同による取組を、平成24年度からスタートするⅡ期対策においては、集落を支える体制の強化や仕組みの整理統合を図り、更に5ヶ年間延長して平成28年度までの対策として継続することとなりました。

『農地・水保全管理交付金』の構成



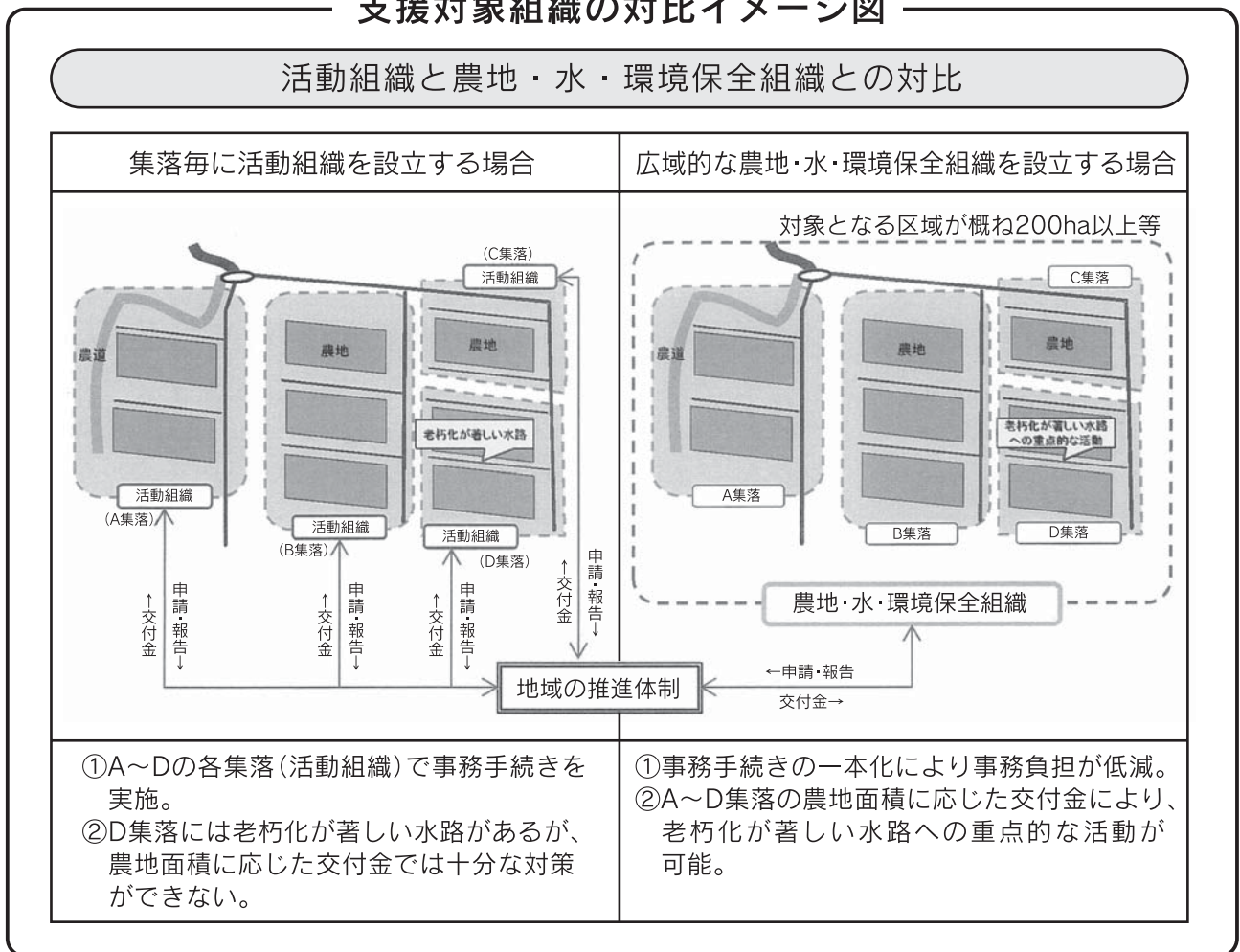
説明会：土地連「第1会議室」に於いて(3月14日)

秋田県次期対策(H24～28)取組方針(案)

■対象活動組織

- 国の基本方針並びに今後想定される共同活動
参加者及び農業従事者の大幅な減少に対するため広域的な保全管理体制の構築へ誘導。
- 平成24年度からの対策においては、現行で200ha以上の組織は「農地・水・環境保全組織」を新たに設立することとします。

支援対象組織の対比イメージ図



参考 次期対策の支援単価

現在、農林水産省で全国の要望量調査を実施中であり、支援単価については**変更となる場合があります。**

〔共同活動支援交付金〕

- 継続地区 2,800円／10a
- 新規地区 3,500円／10a

〔向上活動支援交付金〕

- 施設の長寿命化 4,400円／10a(地元負担有り)
 - 高度な農地・水 500～2,000円／10a(上限有り)
 - 農地・水組織 400千円／組織(単年度)
- ※ ●は支援について、現在検討中

特集

農業水利施設内の「ゴミ」問題

シリーズ⑧

平成23年度農業水利施設「ゴミゼロ」対策の取り組み結果

■農業水利施設でのゴミ処理経費の軽減取り組み

○アンケート聞き取り調査(前年度の追跡調査)

灌漑期(5月～8月)における管理人の処理経費等

(単位:千円)

| 水系別 | H22 | H23 | 備考 |
|-------|--------|--------|--------|
| 米代川水系 | 8,216 | 7,671 | |
| 子吉川水系 | 3,479 | 3,768 | |
| 雄物川水系 | 39,806 | 38,740 | |
| 計 | 51,501 | 50,179 | ▲1,322 |

■農業者への農業ゴミ防止に対する意識の浸透と、地域活動を通じた住民へのゴミ投棄防止への取り組み

1. 会員水土里ネットの広報誌等に「ゴミ捨て防止」コーナーを設けて頂き、農家への啓発活動を実施

〔各水土里ネット発行の広報誌に掲載〕

- ・大潟土地改良区 ・鳥海町上川内堰土地改良区 ・にかほ市土地改良区
- ・秋田県南旭川水系土地改良区 ・秋田県雄物川筋土地改良区
- ・山城水系土地改良区 ・雄勝郡山田五ヶ村堰土地改良区 ・羽後町土地改良区

2. 他機関が実施する活動への積極的参加

平成23年10月22日(土)

NPO法人秋田パドラーズ主催の

雄物川河口クリーンアップへ参加

本会職員17名参加



3. 本会会報誌「秋田の土地改良」及び本会ホームページでの広報活動の継続実施

- ・会報誌「秋田の土地改良」…第468号～471号
- ・ホームページ…農業水利施設内のゴミ問題ページ

■外部(県民)への情報発信

○オリジナルのぼり旗を作成し、事務所敷地内へ設置



○チラシを作成し、各イベントで県民に配布



「中山間ふるさと・水と土フォーラム」

～農山村の魅力を再確認～

「わくわく探訪」参加の小学生が感想文発表

3月17日(土)、秋田市の秋田県庁第2庁舎で平成23年度『中山間ふるさと・水と土フォーラム』(主催:秋田県、後援:水土里ネット秋田、あきた食料・環境・ふるさとを考える地球人会議、秋田花まるっグリーン・ツーリズム推進協議会)が開催され、約120名が参加し農業や農山村地域の魅力を再確認した。



このフォーラムは、農業・農村が有する自然や景観、伝統文化など県内各地の魅力を知ってもらい、農業・農山村を守り継ぐことの大切さ、農地や農業水利施設などの大切さを広く一般県民に知ってもらおうと開催された。

オープニングでは、県指定無形民俗文化財に指定されている、にかほ市象潟町小滝地区の「鳥海山小滝番楽」が同保存会によって披露され、優雅で力強い舞と幻想的な雰囲気に参加者も魅了されていた。

また、秋田市河辺の野外活動団体「あきた山の学校」の藤原優太郎主宰が「次世代に伝えたい～ふるさと秋田の魅力～」と題して基調講演を行った。人間の生活スタイルが自給自足から都市依存型に変化し、環境や伝統文化よりも経済効果が重視されるようになってきたと指摘。「水や緑といった自然がわれわれの心にもたらす効果は計り知れない。精神的、情緒的なものを切り捨てず、身近な自然や身の回りを見つめ直し、新しい価値観の入口を見つけるべきだ」と話した。



続いて、小学生による体験活動の感想文発表、男鹿市で「琴川のすげ笠」作りを受け継いでいる地元青年の活動発表、「八郎湖の再生」に取り組んでいるNPO法人はちろうプロジェクトの活動報告など3組が農山村地域の体験活動を発表。このうち秋田市立旭川小5年の高畑美和さんと佐藤優奈さんは、昨年7月、地球人会議主催で行われた「水土里の郷・

鳥海 わくわく探訪(土地改良施設巡り)」に参加し、沿岸部の水田を塩害などから守る「由利海岸波除石垣」や歴史的施設にもなっている「上郷温水路群」などを見学したことを報告し、「自然の力を利用した昔の人の知恵はすごい。学校では教わらない新しい発見がいくつもあった」などと感想を述べた。



特集

地域からの
情報発信

伝統芸能

雄勝支部水主里レポート 矢野 三郎
(羽後町土地改良区事務局長)

秋田県南部に位置する羽後町には古くから伝えられてきた伝統芸能が数多く残されており、中でも代表的なものは、国指定重要無形民族文化財の「西馬音内盆踊り」と秋田県指定無形民族文化財の「仙道番楽」です。

西馬音内盆踊りは800年の歴史を持つと伝えられており、お盆の8月16日から18日までの3日間行われ、近年では有名になり県内外からたくさんの観光客でにぎわいます。盆踊りが踊られるのは、西馬音内の町の中心部の通りです。夕方、篝火を焚き、寄せ太鼓が始まるとやがて踊りが始まり、最初は子供たちが踊り、だんだんと大人たちの踊りに移行していきます。

「彦三(ひこさ)頭巾」と、「端縫い(はぬい)衣装に鳥追い笠」を纏った優雅な踊りが多くの人々を魅了し、最近では、県外・海外のイベントにも呼ばれメジャーになっているようです。また、盆踊り会館もでき西馬音内盆踊りの映像と盆踊り人形と月1回の公演と衣装等が観られます。

もうひとつの仙道番楽は、町の中心部より西南15キロ離れた中山間地の山間新処に伝わり、400年の歴史があると伝えられております。以前は山間部に集落の名称を持つ4つの番楽団が伝えられてきたが、近年の娯楽の多様化・団員の後継者の不足により次第に衰退していったという、唯一残された一団だけとなってしまったようです。番楽が演じられるのは4月中旬の幕開きに始まり、村内の神社の祭典・慰霊祭等、さらに祝賀会等のアトラクションなどでも演じられ、雪の舞う頃に幕納めとしての演舞で年間の活動を終えます。



仙道番楽は一番より十二番まであって、一番より六番までを表六番と称し「獅子舞から鳥舞」、七番より十二番までを裏六番と称して「位頭御神楽からわらび折姫之舞」まで、その順番で演じられます。

今、中山間地の農村は過疎化・高齢化等の進行が加速化している中であって、無形文化財として今後も地域に継承するためにそれぞれ保存会を設けていることが、伝統芸能の保存継承に大きな役割をはたしていると思っております。

また、羽後町にある県立羽後高等学校にはその伝統芸能を継承するため、伝統芸能部があり、西馬音内盆踊り、仙道番楽等を練習し、何度も全国高等学校総合文化祭・県高文連日本音楽・郷土芸能合同発表会に出場し優秀な成績を収めております。今年も8月に富山県砺波市で行われる全国大会発表会に最優秀賞全国大会推賞として出場します。生まれ育った地域の伝統芸能を学び未来へ伝承活動していくことによって、農村の持つ魅力が見直されることを願ってやみません。



●「新春もちつきお楽しみ交流会」を開催！●

宮城・福島の避難者と「もちつき」で交流！



1月28日(土)、東日本大震災で被災し秋田市内に避難している人たちを招待し、もちつきで親睦・交流を深めようと「新春もちつきお楽しみ交流会」が、秋田市仁別の太平山スキー場オーパスで開催された。

イベントは、被災者につきたての餅を食べて元気になってもらおうと、水土里ネット秋田・「あきた農業体験施設」運営会議が主催し、太平山観光開発(株)・太平山スキー場オーパス・松原活性化協議会(工藤嘉範会長)の協賛で行われ、宮城、福島両県から秋田市内に避難している14家族

42人を含む約80名が参加した。

オープニングで、水土里ネット秋田の水戸憲光常務理事が「水土里ネット秋田では、秋田市内の耕作放棄地を活用して、農業体験を通じた食育や収穫の喜びを感じていただく活動を行っている。その農地で収穫した餅米を使った餅つきを企画したところ多くの方に参加いただいた。今日は、つきたての餅を食べながら楽しく交流していただきたい。早く地元に戻る



ことが出来ることを願っています」と挨拶。引き続き、餅つきが行われ、子供たちは「よいしょ、よいしょ」と声を上げながら、大人と一緒に杵を持ち上げたり、重い杵に顔を赤くしながら懸命に振り下ろしていた。つき上がった餅は、「あんこ」や「きな粉」、「ごま」で味付けして味わった。

イベントは、餅つき大会、試食会に続いて、雪上みかん蒔きなども行われ、福島県郡山市から家族で避難している小学生の兄妹は「杵が重くて、もちがくっついて、つくのが大変だった」、「つきたてのお餅はとてもおいしかった」と笑顔で話していた。



「水土里情報システム」への加入について(お願い)

水土里情報システムは、農業分野の様々な業務の効率化にその力を発揮するGISによる農地情報システムです。

先の大震災では、被災農地の原形把握から設計までの災害対応においても本システムの重要性が実証されております。

加えて、所有者、耕作者や水利施設等の属性情報を整備することにより、農地集積、災害・防災計画、施設の維持管理計画等への活用や、情報の共有化を図ることにより「地域農業の再生」に向けた諸課題を解決していくことが期待されます。

水土里情報システムは平成18年度から平成22年度までの5年間、秋田県分として6億円あまりの国費を投じ情報整備され、有効な機能をもって構築されたシステムです。

また、平成24年度からの本格運用を前に、関係団体への操作説明会の実施等、鋭意準備を進めているところでございます。

土地改良区、市町村その他農業関係団体におかれましては、地域の農村振興を図る上で、中核となる役割に鑑み、水土里情報システムの加入について特段のご配慮を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

【担当・申込先】

水土里ネット秋田 水土里情報センター室
TEL. 018-888-2723 FAX. 018-888-2835

連 合 会 日 誌

| | | |
|---------------------|-----------------------------------|------------------|
| 2月14日 | 秋田県土地改良事業団体連合会雄勝支部研修会 | 湯沢市 |
| 2月16日 | 平成23年度第4回理事会並びに第4回役員会 | 本会「第1会議室」 |
| 2月21日 | 平成23年度土地改良区合併推進リーダー育成研修会 | 東京都 |
| 2月21日 | 平成23年度由利支部土地改良区理事長・土地改良関係担当部課長研修会 | 由利本荘市 |
| 2月21日 | 平成23年度仙北支部研修会 | 大仙市 |
| 2月22日 | 第5回農村環境・環境保全型農業を考える集い | 横手市 |
| 2月28日 | 都道府県土地改良事業団体連合会事務責任者会議 | 東京都 |
| 2月29日 | 食料・農業・環境を守る秋田県民会議 | 秋田市 |
| 3月5日 | 平成23年度基金管理委員会 | 本会「第1会議室」 |
| 3月5日 | 平成23年度雄物・米代川地域広域基盤確立推進協議会総会 | 本会「第1会議室」 |
| 3月8日 | 秋田県土地改良区統合整備推進協議会 | 本会「第1会議室」 |
| 3月8日 | 秋田県21世紀土地改良区創造運動推進本部員会議 | 本会「第1会議室」 |
| 3月9日 | 平成23年度秋田県管理円滑化事業推進委員会 | 本会「第1会議室」 |
| 3月9日 | 全国土地改良事業団体連合会理事会 | 東京都 |
| 3月9日 | 平成24年度 土地連OB会・定例会 | 秋田市 |
| 3月9日 | 平成23年度秋田県換地等強化事業推進委員会 | 本会「第1会議室」 |
| 3月19日 | TPP交渉参加阻止「全県統一街頭宣伝活動」 | 秋田市「JR秋田駅東西連絡通路」 |
| 今後の行事予定 | | |
| 3月27日 | 全国土地改良事業団体連合会通常総会・表彰式 | 東京都 |
| 3月30日 | 秋田県農業公社第23回通常総会 | 秋田市 |

会 員 だ よ り

事務所移転のお知らせ

○大館市十二所土地改良区は、H24. 2. 27 より次のおとり 事務所を移転しました。
 (新事務所)
 〒018-5601 大館市十二所字中町6番地
 (旧大館市十二所公民館)
 電話・FAX 0186-52-2615

新理事長就任のお知らせ

次の方々が新たに理事長に就任されました。

○秋田市上北手猿田土地改良区(H24. 1. 19)
 理事長 鎌田悦雄

○男鹿市福川土地改良区(H24. 1. 24)
 理事長 小玉満

野山の花 ふきのとう(蔭の臺)



キク科の多年草、フキの花茎で日本原産の山菜・野菜。雪解けを待たずに顔を出す春の使者。全国の山野に自生し、一番早くでてくる山菜。独特の香りとほろ苦さが春の息吹を感じさせる。冬眠から目覚めた熊は最初にフキノトウを食べるとか？

撮影：2012.3 由利本荘市
 (写真提供/井島めぐみ)

編 集 後 記

◆沖縄を除き6年ぶりに全国的な「寒冬(かんとう)」となったこの冬ですが、3月に入って気候が和らいで、春の日差しが少しずつ差し込み、雪解けが進んできました。また、桜の便りが南から日本列島を上昇し始め、秋田市の今年の開花予想は4月21日となっています。さて、早いもので東日本大震災・原発事故の発生から1年が経過しました。3月11日は、被災地はもちろん秋田県内でも各地で追悼、復興祈願のイベントが行われました。震災で亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された皆さまに改めてお見舞い申し上げます。被災地の復旧・復興はスタートラインに立ったばかりです。「桜前線」のように、一歩ずつ、着実に、復興に向けて進んでいってほしいと思っています。(広報・渉外班 ◆嵯峨記)

表紙写真 美しく豊かな農村づくり写真コンクール入賞作品「桜咲く頃」

※本印刷用紙は、大昭和板紙秋田工場で生産された「地産地消製品」を使用しております。